

真名子川支流への沢(仮称)

1990年10月21日

への沢(仮称)もナメが続いているが、二の沢(仮称)やホの沢(仮称)と異なるのは、ナメの終点が沢の終点とはなっていないことである。また、ナメの途中に小さな湿地もみられる。ナメが終了するとあとは細いミゾ状の流れとなってブッシュの中に消えてしまっていた。

[タイム] 出合(9:20)→遡行終了(9:30)

八溝山周辺の沢

八溝川源流右俣

1990年10月27日

9:00八溝川源流右俣の下降開始。林道真名畑八溝線から樹林帯の中へ入り込むと、3段になった木柵の土止めがあり、その下に砂防ダムがあった。右俣の流れはこの砂防ダムの下から始まる。水源は、中俣と同様、岩屑の下からしみ出る湧き水であった。

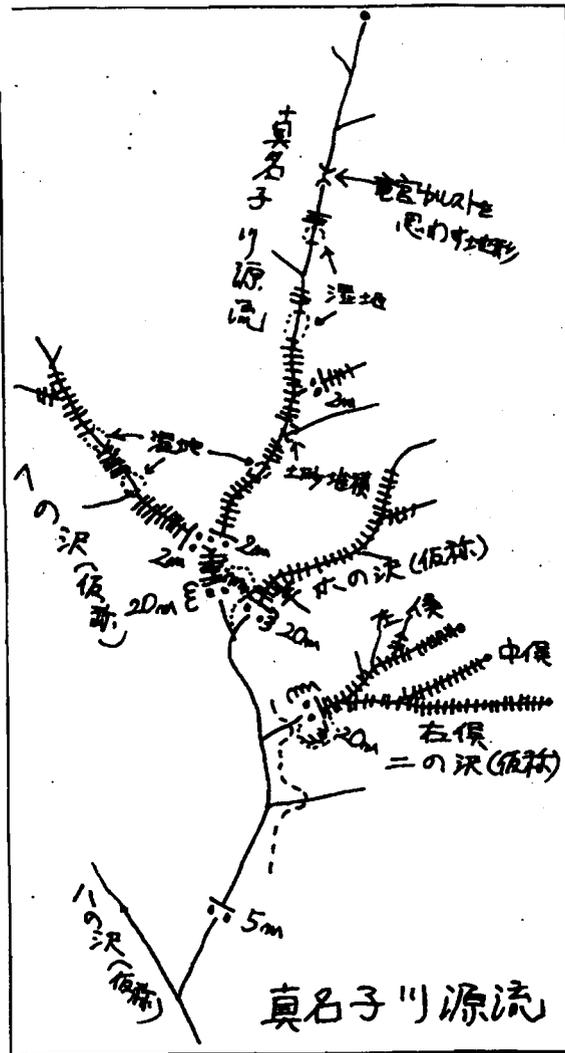
岩屑のいっぱいつまった沢筋を下る。下るにつれて左右から支沢を合せ、水量は次第に増してゆく。平凡な沢を30分程下ったら、突然という感じで兩岸が岩場となって、沢相が険悪となった。でも、滝は1m程のごく小さなものがかかるだけ。それに距離も短く、この先はまた平凡となって、中俣出合まで続いた。9:40中俣出合に到着する。

(記・

[タイム] 右俣下降開始(9:00)→中俣出合(9:40)

八溝川源流中俣

1990年10月27日



く遡行するつもりである。紅葉の始まりかけた樹林帯の中を5分程遡ると最初の滝が出てきた。5m ナメ滝。何本もの白糸をかけたような感じの滝。ここらあたりの沢は、標高700mのあたりで落差20m程の滝をかけるだけだと思っていたので、ちょっともうけたような気分になる。ホールドが豊富なので、右岸を直登して越える。このあとさらに5分程遡ったところが二の沢(仮称)出合であった。本流の方の遡行は一時中断して二の沢(仮称)に入る。

二の沢(仮称)の遡行終了後、出合まで戻って本流の遡行再開。10分程遡るとホの沢(仮称)出合となる。ホの沢(仮称)は出合から50m程入り込んだ所に20mの滝をかける。本流の方もやはりホの沢(仮称)出合から50m程上流にこれまた20mの滝をかける。両方の滝とも

直登不能。ここは捲くしかない。2つの沢を分ける小尾根に取り付いたところ、この小尾根には踏跡があり、おかげで楽に高捲くことができた。

本流の20m滝の上はやはりナメ。そのナメを50m程進むと、への沢(仮称)出合である。ここで本流遡行をまた中断して、への沢(仮称)に入る。

への沢(仮称)の遡行を終えると、再び出合まで戻って本流の遡行を続けるが、ここまできると本流の方ももう狭い流れとなっている。そしてナメが終了。この先はもう細い流れとなって、随所に湿地が出てくる。どこで遡行終了にしようかと考えながら進んでいたら、ちょっと変わった地形が出てきた。沢が湿地帯の中をトンネルとなって流れているのである。規模は比較にならないが、尾瀬の竜宮カルストと全く同じである。湿原地帯ではともかく、沢の源流でこんな地形をみ